

3学期始業式での西山校長の話

志を立て 充実した3学期にしよう

< 体と心の成長を >

みなさん身長が伸びましたね。調べところ、昨年3年間で一番伸びた人は17.2cm、一番少ない人でも7.1cmも伸びたそうです。一回りも二回りも成長したのだなと思います。中学生の時は体が子どもから大人へと準備されていきます。

中学を卒業すれば、義務教育を終了したということで社会に出ることができます。そうなれば、もう社会人。我々といっしょです。もし、同じ職場にいることになれば、同僚として力を合わせて働くことになります。ですから、みなさんには体はもちろんですが、心の面でも成長してほしいと思います。

< 橋本左内の「啓発録」 >

そこで、今日はみなさんと同じ年齢の時に自分を奮い立たせるために本を書いた人を紹介します。橋本左内という人で、「啓発録」を書きました。

橋本左内は、幕末の1834年に福井藩の医師の長男として生まれました。幼い頃から学問を好み、19歳で藩の医師を引き継ぐのですが、数え年で15歳の時(14歳)に、自分への誓いとしてこの「啓発録」を書きました。その中に5つの項目があり、この教えは今でも受け継がれています。

- 一つ 「稚心を去れ」
- 二つ 「根性を持って」
- 三つ 「志を立てよ」
- 四つ 「勉学に励め」
- 五つ 「よき友を選べ」

みなさんは「元服」という言葉を聞いたことはありますか。昔は14歳で迎える立春に「元服」という儀式を行いました。そして、それまで使っていた名前を変えました。それまでの名は幼名といって子どもの頃に使う名前。元服後は大人として扱うという名前に変えたのです。まさに、橋本左内は、元服を機に自分への戒めを書いたのです。

< 5つの戒めの意味 >

一つ目の「稚心を去れ」の稚心とは、幼稚な心です。自分のわがままな心、甘えの心を捨てなさいということです。

二つ目の「根性を持って」はその言葉どおりです。無気力・無感動であってはいけない、何事も自分のやるべきことは最後までがんばる気持ちを持つということです。

三つ目の「志を立てよ」は、自分の人生の目標、志をしっかり立てなさいと言っています。みなさんは自分の好きな言葉や支える言葉はありますか。漢字1字とか、二字熟語とか四字熟語にして、色紙に書いて見るのもいいですね。

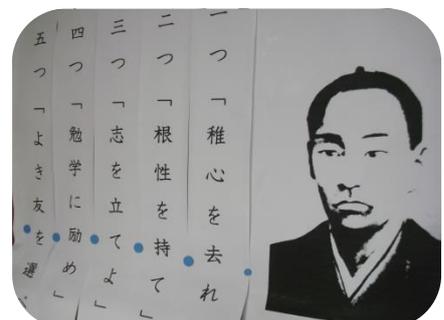
四つ目の「勉学に励め」もその言葉どおりです。志を立てた以上、努力して勉強に励みなさいということです。今3年生は自分の進路に向かって猛勉強をしています。その3年生の気が散るような落ち着きのない学校にははいけません。学校全体でよい雰囲気を作りだしていきましょう。3学期は授業日数が50日しかありません。その学年で身につけるべきことを、確実に身につける。全員がその覚悟で励みましょう。

五つ目の「よき友を選べ」もその言葉どおりです。いろんな友達がいると思いますが、真の友達とは、お互いに励まし合い、高め合えるものです。みなさんの言葉でいう「タメ」は、大勢いると思うのですが、高め合える真の友を持ちたいものです。

< 充実した3学期に >

私自身のことを考えても、とても中学生の時にこのような立派な志を考えてはいませんでした。だからこそ、この5つの言葉にはっとして心を動かされます。

やがてそんなに遠くない時に、社会人として一人前の人間に扱われる時のために、この3学期を充実させてほしいと思います。



第2回学校評議員会

1月26日(月)に本年度2回目の学校評議員会が行われました。今回は前半に生徒代表として校友会の新正副会長3名が参加し、校友会活動の抱負を語ったり、評議員の方々の質問に答えたりしました。



<学校評議員の方々より校友会正副会長への言葉>

- なぜあいさつが必要かをつきつめるのは難しいかもしれませんが、日常の行動が最終的に自分の運命まで変えることもあります。
- 夢の実現のためには、日々の誠実な行動が必要です。決まりだからあいさつすると思っているかもしれませんが、本当は、あいさつは自分の夢を叶える一歩です。校友会で行っている「挨拶道路」や「さわやか西部の日」というあいさつの取組はとてもいいことなので、盛り上げていってください。
- 「やりなさい」と言われたら、逆にやるのがいやになることもあります。先輩から築かれてきた伝統があるので、“あいさつ初年度”のつもりで頑張っていってください。
- 善光寺の掲示板に『壁にぶつかる人は幸せだ。壁にぶつからない人はたくさんいる。壁にたどりつかない人はたくさんいる』と書いてあるのを見て、野球部の生徒に「堂々と壁にぶつかるう」と話しました。勉強や部活動や校友会活動などで困難に遭遇することがあるかもしれませんが、堂々と壁にぶつかっていってください。
- テストで点を取ることや知識を身につけることは大切ですが、答えは1つではないという場面も実際には多いです。勉強することはもちろん大事ですが、そこからもっと探究するとか考えるということをやっている方がいいです。そして、オリジナリティを發揮していってください。
- 大人になって教養がないのは悲しいので、学生のうちに教養を身につける必要があります。そのために大切なのは、読書と友だちをたくさん作ることです。

校友会長の感想

僕は学校評議員会に参加して、自分の考え方が変わった気がします。「あいさつをがんばろう！」と決意していましたが、果たしてそれは真意だったのか。「あいさつはしなくてはいけないものだ」という決まりのようなものに縛られていたからがんばろうと思っていたことも事実



です。評議員の方々のお話をお聞きして、「自分であいさつの価値を探究し続けることに意味がある」ということを学びました。

また、今までは「壁にぶつかること」は面倒だと思っていました。しかし、ある評議員の方がおっしゃった「壁にぶつかれない人もいる中、ぶつかる人は幸せだ」という言葉が僕の胸に響きました。見方を変えればポジティブになれると気づかされた貴重な時間になり、とてもいい経験になりました。

県教育委員会より「体罰に関わる相談窓口」のお知らせ

☆県教育委員会では、「体罰に関わる相談窓口」を設けています。下記まで、封書、電話、ファックス、メール等で相談ができますので、ご活用ください。

宛先	長野県教育委員会 義務教育課 「体罰に関わる相談窓口」宛
住所	〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2
電話	026-235-7426 (直通)
FAX	026-235-7494
E-mail	taibatsu-sodan@pref.nagano.lg.jp